

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	救急から取り組む生活に戻すためにチーム医療の実践
研究責任者 (所属科名)	桜本 輝美 (看護部 中央処置室)
本研究の目的・意義	A 病院救急外来では、65 歳以上で救急搬送患者数はここ 3 年間で 63%～67%を占め、独居・老老介護・身寄りがない・認知症などソーシャルハイリスクの患者の搬送が増えている。超高齢化社会での救急医療の役割は、「患者の生活、立場を考え、目標を決め、時間軸の中で、優先順に質の高い行動をする。そして、生活の場に、元の状態、あるいは、さらに改善あるいは希望通りに返す。」と言われ、生活の質を考えた救急医療が必要と考える。救急看護師の役割は、「救急処置・医師が行う処置の介助・生活行動援助・患者家族の精神的ケア・チーム医療の調整など」で、緊急、重篤な状態の患者を救うことは当たり前だが求められていることは、生活に戻すためのチーム医療と考え、取り組みを行った。
調査方法・研究期間	学会発表日 2019 年 10/24 10/25 【方法】2018 年 4 月～2019 年 3 月までチーム医療実践報告 【内容】1. スタッフ研修 退院支援に精通した講師による「生活に戻すために医療と他職種連携」の講演会に参加し、参加できないスタッフにはビデオ研修を全員に実施。ビデオ研修を受けて意見交換を実施。2. 院内カンファレンス ①「倫理の 4 分割法」について学習会を実施。②それを使用し救急搬送患者の事例のカンファレンスを毎月 1 回開始。3. WEB カンファレンス ①地域で医療スタッフが楽しく働きつづけるための点と点をつなぐネットワーク②地域住民が住み慣れた場所で安心して暮らし続けることを目的とする。参加者は、複数病院、複数診療所の医師を中心にそれぞれの看護師、連携室スタッフ、救急隊など多職種でネットワークでカンファレンスを開始。2018 年 6 月～2019 年 3 月までに、院内カンファレンス 6 件 WEB カンファレンス 9 件実施した。4. 誤嚥性肺炎パス 2019 年 1 月より、「倫理の 4 分割法」表を使用した、「誤嚥性肺炎パス」の導入を開始、情報

	を病棟へ共有できるように、救急外来から使用できることが特徴である。
該当資料・データ	1/22 中央処置室に救急搬送された患者の中の1名 利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録を利用します。(診療記録・看護記録)
個人情報の取り扱い	事例内容は匿名で個人が特定されないような内容にする。また、内容は研究以外で使用しないこととする。学会終了後、保存データは廃棄予定である。
共同研究機関	なし
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	電話 安佐市民病 院看護部 中央処置室 桜本 輝美
備考	